

平成25年（2013）6月 入域観光客数概況

6月の観光客数は、48万9,100人
対前年（H24）同月比 +6万2,700人、+14.7%
～6月の過去最高を記録～

入域状況

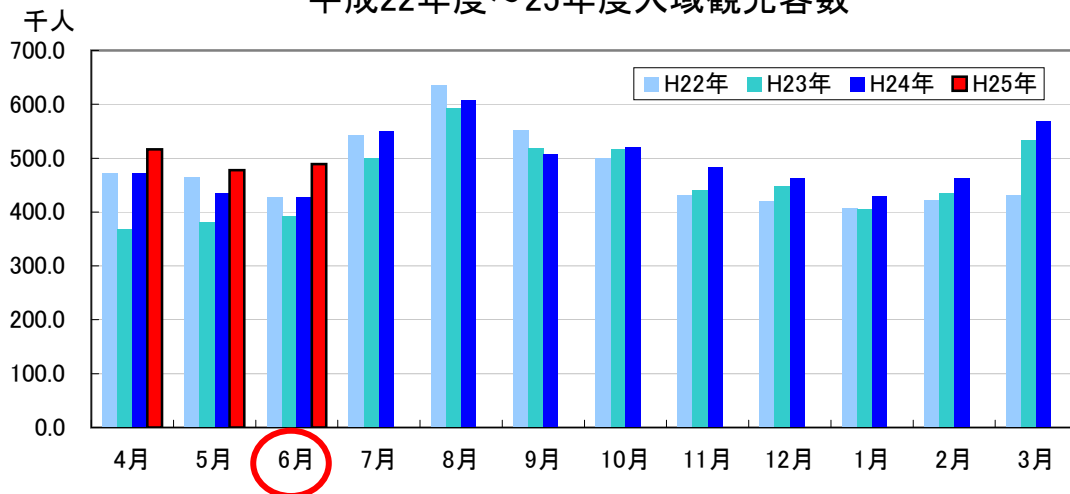
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	426,600 人	391,600 人	+ 35,000人	+ 8.9%	87.2%
外国客	62,500 人	34,800 人	+ 27,700人	+ 79.6%	12.8%
合計	489,100 人	426,400 人	+ 62,700人	+ 14.7%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	426,600 人	391,600 人	+ 35,000人	+ 8.9%	88.8%
外国客	53,700 人	30,100 人	+ 23,600人	+ 78.4%	11.2%
合計	480,300 人	421,700 人	+ 58,600人	+ 13.9%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、LCCの関西－石垣路線就航の影響もあり、関西方面を中心に好調に推移した。なお、中旬の台風4号は、船舶に一部欠航が出たものの、影響は小さかった。

7月以降は、競合地の人気が高く沖縄本島への旅行商品販売が鈍化している傾向にあるが、八重山・宮古方面の人気継続、また、季節運航路線の再開や新規就航等により前年並みに推移する見込み。

外国客 入域状況

6月は、航空路線の増便があった台湾を中心に、引き続き好調に推移した。また、大型クルーズ船マリナー・オブ・ザ・シーズが寄航し、欧米からの観光客が増加した。

7月以降は、前年好調だった中国からの観光客が回復途上にあるが、円安等の影響により台湾、韓国、香港の訪沖旅行需要は引き続き高いため、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	205,500 人	190,300 人	+ 15,200人	+ 8.0%	48.2%
関西方面	92,100 人	77,000 人	+ 15,100人	+ 19.6%	21.6%
福岡方面	52,500 人	50,400 人	+ 2,100人	+ 4.2%	12.3%
名古屋	36,200 人	33,500 人	+ 2,700人	+ 8.1%	8.5%
その他	40,300 人	40,400 人	△ 100人	△ 0.2%	9.4%
合計	426,600 人	391,600 人	+ 35,000人	+ 8.9%	100.0%

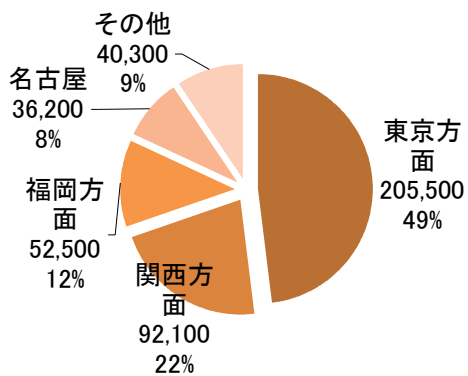
※国内海路客1,900人を含む(鹿児島:1,900人)

外国客 国籍別入域状況

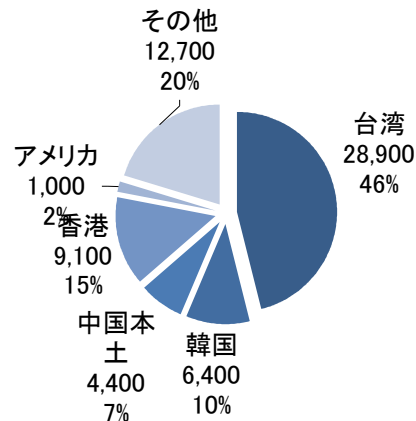
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	28,900 人	28,900 人	14,500 人	+ 14,400人	99.3%	46.2%
韓国	6,400 人	6,400 人	2,200 人	+ 4,200人	190.9%	10.2%
中国本土	2,400 人	4,400 人	5,800 人	△ 1,400人	△24.1%	7.0%
香港	9,100 人	9,100 人	6,700 人	+ 2,400人	35.8%	14.6%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	600 人	+ 400人	66.7%	1.6%
その他	5,900 人	12,700 人	5,000 人	+ 7,700人	154.0%	20.3%
合計	53,700 人	62,500 人	34,800 人	+ 27,700人	79.6%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	19,100 人	19,100 人	+130.1%	47.8%	9,800 人	9,800 人	+58.1%	43.6%
韓国	6,400 人	6,400 人	+220.0%	16.0%	0 人	0 人	皆減	0.0%
中国本土	2,400 人	2,400 人	△47.8%	6.0%	0 人	2,000 人	+66.7%	8.9%
香港	9,000 人	9,000 人	+34.3%	22.5%	100 人	100 人	皆増	0.4%
アメリカ	500 人	500 人	△16.7%	1.3%	500 人	500 人	皆増	2.2%
その他	2,500 人	2,600 人	+73.3%	6.5%	3,400 人	10,100 人	+188.6%	44.9%
合計	39,900 人	40,000 人	+68.8%	100.0%	13,800 人	22,500 人	+102.7%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、メジャーアーティストのコンサート等のイベント開催に加え、八重山方面への旅行人気の継続により、好調に推移した。前年からのLCC就航も引き続き客数増加に寄与している。

7月、8月は沖縄本島への旅行商品も販売状況が鈍化傾向にあるが、八重山方面、宮古方面への旅行は好調を維持しており、前年並みに推移する見込み。

大阪

6月はピーチアビエーションの関西－石垣路線が就航した影響により、前年同月を大きく上回った。

7月は石垣路線の人気に加え、増便となる伊丹－那覇路線を利用した旅行商品の販売状況が好調で、前年同月を上回る見込み。8月の旅行商品は伸び悩んでおり、前年並みに推移する見込みである。

福岡

沖縄と同価格帯商品である東京方面、関西方面が好調なため、沖縄関連商品は伸び悩んだが、旅行社が低価格商品を販売するなど対策を講じ、順調に伸びた。web商品も好調とみられる。

7月からは福岡－石垣路線の再開に伴い関連商品が人気であるが、福岡からの直行便があるハワイやオランダへの旅行需要が高く、沖縄への旅行は低調となる見込み。

名古屋

3月から引き続き中部－石垣路線が好調を維持し、前年同月を上回った。

7月、8月は旅行社が家族旅行のパッケージ商品に注力しており、家族旅行を中心に好調に推移する見込み。現地で八重山観光セミナーや沖縄物産展での観光PR効果が9月以降に現れることを期待。

台湾

6月は連休こそないものの、既存路線の増便や機材大型化に伴い、空路客を中心に好調に推移した。

7月以降も引き続き、週末及び9月の旧盆時期の連休前後は航空座席がほぼ満席の状況であり、好調に推移していく見込み。石垣や久米島への問い合わせも増加しており、当該方面への旅行需要も高まっていると見られる。

韓国

6月は、円安の影響に加え、慰霊の日を含んだ4連休もあり好調に推移した。家族旅行も増加傾向にある一方で、民宿とレンタカーを利用する若年層の個人旅行者も増加している。

7月以降は、夏休みや連休等により増加する旅行需要に対応し、アジアナ航空が一部の便で機材を大型化することから(175席→205席)、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

直行便が連休中のため前月と変化がないが、7月の再開に向け旅行商品の販売が継続され好調の様子。

7月は直行便が再開するのに伴い団体旅行客の回復が見込めるが、好調だった前年並みには達しないと予想される。観光プロモーションもダイビングセミナーを中心に実施する予定となっており、今後のPR効果に期待。

中国本土・上海

6月から上海－那覇路線が週4便から7便へ増便となり、前年の実績には至らなかったが、着実に回復している。

7月も週7便体制が維持されることから、回復傾向の個人旅行者及び夏休みの家族旅行を中心に増加する見込みだが、前年7月に3回寄航したボージャー・オブ・ザ・シーズの寄航がないため、前年実績を大きく下回る見込み。

香港

訪日旅行需要が依然高く、沖縄方面への団体旅行、個人旅行商品の販売が好調を維持しており前年同月を上回った。

7月、8月は夏休みの家族旅行が多くなる見込み。団体旅行は既に完売し、9月以降の旅行商品の販売に取り組んでいる旅行会社もあることから、今後も好調に推移していく見込み。